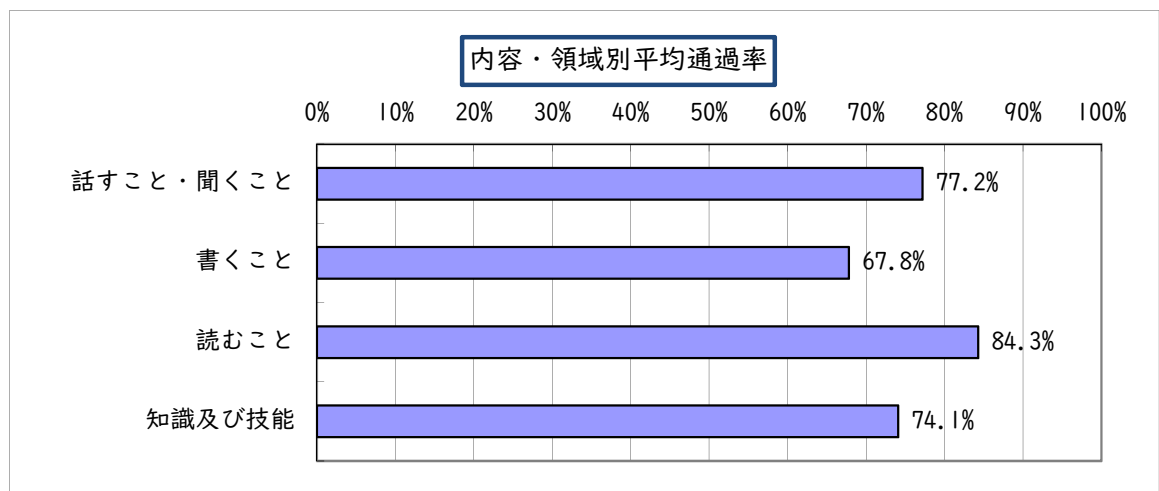
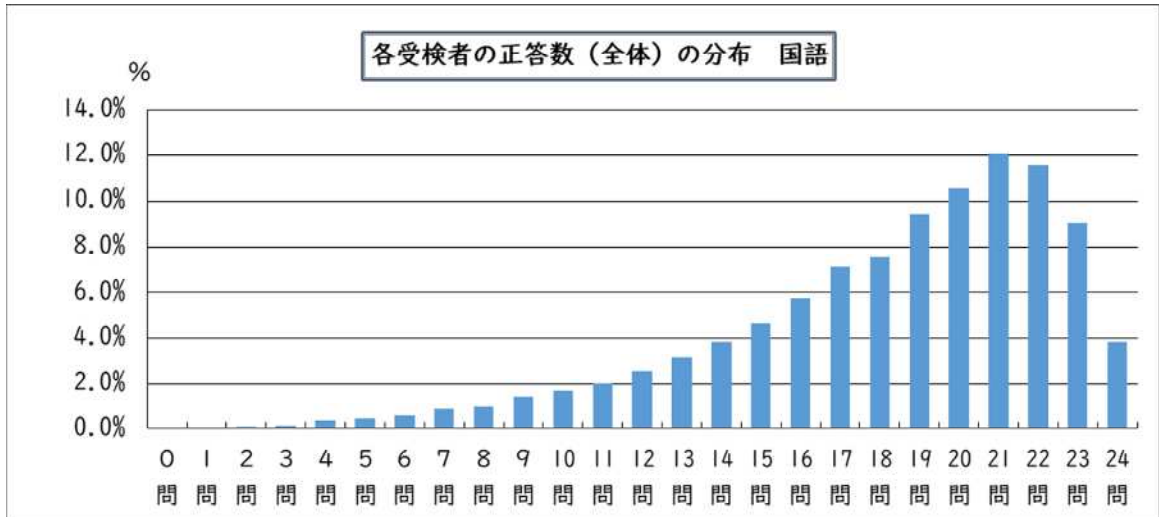


(1) 中1平均通過率と受検者の正答数分布

学年別平均通過率		小5	中1	中2
	知識・技能	80.1%	74.1%	62.6%
	思考・判断・表現	60.4%	77.6%	67.9%
	全体	68.5%	75.9%	65.6%



- 「知識・技能」の平均通過率は74.1%と、70%を超えており、概ね学習内容の定着が図られていることが分かります。一方、大問1(1)「漢字の書き」の無答率は11.0%、大問1(3)「漢字の部首」の平均通過率は35.9%と、低い結果になっています。国語科の様々な言語活動はもちろんのこと、日常生活や各教科等の中で、機会があるごとに漢字を意識するよう工夫し、必要に応じて辞書を引くことを習慣付けるなど漢字を正しく用いる態度と習慣を養うことが大切です。
- 「思考・判断・表現」の平均通過率は77.6%と、70%を超えています。また、令和4年度より13.2ポイントも上回っており、授業改善を進めながら学習内容の定着が図られていることが分かります。昨年度課題であった「読むこと」の平均通過率が84.3%となり、28.9ポイントの改善が図られました。大問2については、「文章のリライト」や「物語の展開」など過去の全国学力・学習状況調査で課題が見られた内容の類似問題を出題しています。今後も指導事項を明確にしながら、相手・目的意識のある言語活動を通じた授業改善を進めることが大切です。
- 生徒質問紙において、「授業で、タブレットやパソコン、電子黒板等をどれくらい活用していますか」については、「ほぼ毎日使用している」と回答した割合が12.3%と、他の教科・学年より低い結果になっています。特に、考えを共有したり推敲したりする場面では、ICT機器を効果的に活用することができるため、積極的に活用することが大切です。

(2) 各設問の分類と平均通過率

国語(中学校第1学年)

	設問			内容領域別				評価の観点		県平均		校内平均		出題の意図			
	大問	中問	小問	出題学年	知識及び技能 話すこと 聞くこと	書くこと	読むこと	知識・技能	思考・判断・表現	通過率	無解答率	通過率	無解答率				
1		一	1	小4 小6	○			○		93.8%	0.6%			学年別漢字配当表に示されている漢字を文や文章の中で正しく読んだり、書いたりすることができるか。			
2			2	小4	○			○		70.9%	11.0%						
3		二	1	小5 (漢字は 小2)	○			○		77.4%	0.1%			文意や熟語の意味から正しい漢字を判断することができるか。			
4			2	小5 (漢字は 小5)	○			○		82.6%	0.0%						
5		三		小学校 中学年	○			○		35.9%	0.0%			漢字の部首名を正しく答えることができるか。			
6	1	四		中1	○			○		67.8%	0.0%			単語を理解し、適切に区切ることができるか。			
7		五		小学校 中学年	○			○		62.3%	0.2%			故事成語の意味を正しく理解することができるか。			
8		六		中1	○			○		67.6%	0.1%			文脈上の正しい語句の意味を理解しているか。			
9		七	1	中1	○			○		91.3%	0.1%			古文の内容と古語の意味を正しく理解しているか。			
10			2	中1	○			○		78.7%	0.1%						
11			3	中1	○				○		84.5%	1.0%					
12		一		中1			○		○	87.6%	0.3%			文脈の中における語句の意味を捉えることができるか。			
13		二	ア	小学校 高学年			○		○	77.9%	3.9%			文章と図表などを結び付けて内容を捉えることができるか。			
14					イ			○		○	90.9%	3.5%					
15					三	中1			○		○	87.3%	0.4%				場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉えることができるか。
16					四	中1			○		○	80.1%	0.3%				場面の展開、登場人物などの描写に注意して読み、内容を理解することができるか。
17		一		中1	○			○		77.0%	1.7%			原因と結果、意見と根拠など情報と情報の関係について理解することができるか。			
18		三	二	中1			○		○	82.0%	0.8%			文章の構成や展開について根拠を明確にして考えることができるか。			
19			①	中1		○			○	70.8%	14.0%			根拠を明確にししながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができるか。			
20			②	中1		○			○	49.8%	15.5%						
21		一		中1		○			○	70.0%	0.8%			目的や意図に応じて、必要に応じて質問して話の内容を捉えることができるか。			
22		四	二	中1		○			○	84.3%	5.1%			必要に応じて記録しながら話の内容を捉えることができるか。			
23			条件1	中1		○			○	80.0%	11.0%			目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるか。			
24			条件2	中1		○			○	70.6%	11.9%			根拠を明確にししながら、自分の考えが伝わる文章を書くことができるか。			
計				問題数	12	2	4	6	12	12							
			出題割合	50.0%	8.3%	16.7%	25.0%	50.0%	50.0%								
										75.9%	3.4%						

(3) 国語<中学校第1学年>

ア 特徴ある問題から 大問 3

(中学校学習指導要領解説 国語編

「B 書くこと」 P62~65)

特徴ある問題として、過去の全国学力・学習状況調査や鹿児島学習定着度調査の結果から課題となっている「伝えたい内容や自分の考えについて根拠を明確にして書いたり話したりすること。」「複数の資料から適切な情報を得てそれらを比較したり関連付けたりすること。」について出題しています。

**中間3**

大山さんは、【本の一部】を引用して、【大山さんの文章の下書き】Aの部分を書こうとしています。あなたならどう書きますか。以下の条件にしたがって書きなさい。

<条件>

- ①【本の一部】から引用して書くこと(引用部分は「」を用いること)。
- ②【本の一部】の内容に対する意見を、大山さんの立場で述べること。
- ③七十文字以上、百十文字以内で書くこと。

本問題の観点②「引用した部分に対する自分の考えを具体的に書くこと。」における平均通過率は **49.8%**、無答率は **15.5%** となっています。原因として、自分の考えが確かな事実や事柄に基づいたものであるかどうかを確かめる授業や、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見出すような授業が十分になされていない可能性があります。

そこで、次のような視点での授業改善が考えられます。

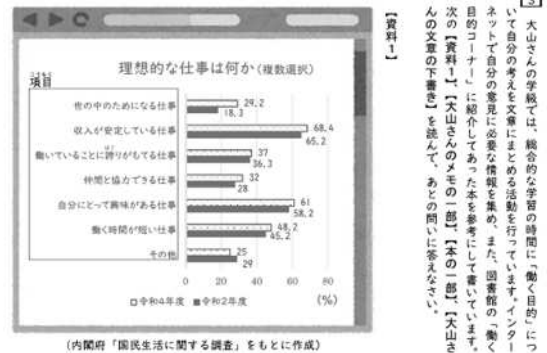
イ 授業改善のポイント

単元の中で、[知識及び技能](2)ア「情報と情報との関係」と、「書くこと」を関連付けながら、系統性を踏まえた授業を行う必要があります。第1学年では、他者の意見を理解したり、自分の意見を述べたりする言語活動に取り組む中で、話や文章の中に含まれている情報と情報とがどのように結び付いているかを捉えて整理したり、意見と意見を支える根拠を明らかにしたりすることが重要です。

一人で記述する(「考えの形成、記述」,「推敲」)時間、グループ等で話し合う(「共有」)時間を確保しましょう。具体的には・・・

- 自分が選択した情報を図示するなど、どのように考えたか伝わるように説明する。
- 友達がどの情報を選択し、どのように考えたかを聞き、質問や反論をする。
- 自分が選択しなかった他の情報を選択し、新たな考えや根拠を記述し説明する。

本問題では、根拠となる事実の引用や「大山さんの立場」で文を考える際に、どの表現に着目するかが大事になります。  
【大山さんの下書きの文章】第3段落の「しかし」に着目すると、第2段落に書かれている「収入(お金)」が目的でないことが分かります。



大山さんのメモの一部

①ビのような仕事は理想的かについて

◆【資料】のグラフから分かったこと  
どのような仕事かという点について、令和2年度、令和4年度と、収入が安定している仕事を選ぶ割合が最も高い。  
また、令和2年度と令和4年度と比べると、その他の項目を除き、すべての項目で増えているが、なかでも増えている割合が最も大きい。

【本の一部】

私自身、サービス業に携わる者として、毎日多くの人とコミュニケーションをしますが、疲れたら、やはり多くのものをもらっていると思います。そして、その場合に得るのはやはり、働くことの一義である「他者からのアテンション」の一種ではないでしょうか。自分自身には「私はなぜ働いているのか」と問うてみる必要があります。すると、いろいろ考えたあげく、他者からのアテンションを求めているからという答えが返ってきます。お金は必要ですし、地位の必要はないという答えも返ってきます。それによって、社会の中にある自分を再確認できるし、自分にとっていいのだという安心感が得られる。そして、自信にもつながっているような気がします。

(要約中)「協働力」より

大山さんの文章の下書き

働く目的  
「将来の夢は何ですか。」  
中学生になってから周りの人たちによく聞かれる質問です。私はこの質問にどうも答えられないままです。今、総合的な学習の時間をとおして、働く目的について考え、将来の夢について考える機会となりました。インターネットで調べたところ、「収入が安定している仕事」が理想的だと選ぶ割合が高くなっています。確かに多くの人の働く目的は収入を得るためなのかもしれません。

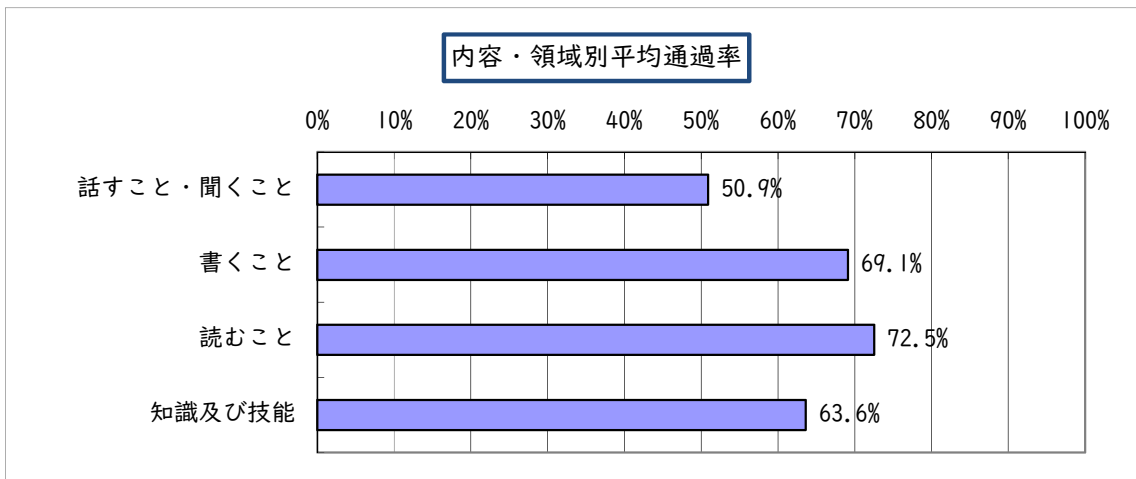
しかし、「協働力」(要約中)では  
私の父(五十二歳)にたずねてみたところ、「収入のために働いている」といふ、確かにそういうこともあるだろうな。ただし、長いこと仕事をしていて、たくさんの方々から感謝されたときは、自分これまでの仕事の向き合い方はまちがっていなかったんだと励まされた。これこそが社会の中でいかに人々と関わって仕事をしてきたよかったです。感じたりするところもあるよ。」と答えてくれました。

父が経験したこと重要ですが、私は以親、地域清掃の仕事の補助をするボランティア活動に参加したことがあります。清掃活動は広く、こみこみとさんあり時間かかりましたが、作業の途中で通りすがりの方が、「大変ですね、ありがとうございます。」といった声をかけてもらったことがありました。そのときはうれしきはもらって、ボランティアの仕事を通じて社会の一員として関わることができた充実感や、やりがいを感じることができました。

だから、私は(以下、略)

(1) 中2平均通過率と受検者の正答数分布

学年別平均通過率				
		小5	中1	中2
	知識・技能	80.1%	74.1%	62.6%
	思考・判断・表現	60.4%	77.6%	67.9%
全体	68.5%	75.9%	65.6%	



- 「知識・技能」の平均通過率は62.6%と、70%を下回っており、授業改善を進め学習内容の定着を図る必要があります。特に、大問1(6)「行書」の平均通過率は37.5%と低い結果になっています。行書の問題は、令和4年度の平均通過率も46.6%と低い状況にあります。行書の指導に当たっては、生徒自らが行書の特徴に気付き、どのようにすればこれらの特徴を生かした書き方ができるのかを考えることができるように、話し合いや観点に沿った振り返りを単元に取り入れることが大切です。また、行書の特徴に合わせて、自分が書いた文字を自己評価させるような活動も大切です。
- 「思考・判断・表現」の平均通過率は67.9%と、令和4年度より8.0ポイント下回っており、更なる授業改善を進め学習内容の定着を図る必要があります。特に、「話すこと・聞くこと」の平均通過率は50.9%と、昨年度より24.1ポイント下回っています。大問4(1)「発言の意図」の平均通過率は40.1%、大問4(3)「説明の構成」の平均通過率は40.9%と、低い結果になっています。これらの「非連続型テキスト」を用いた問題は、令和4年度鹿児島学習定着度調査の類似問題です。「非連続型テキスト」を活用した言語活動を位置付ける授業改善を進める際は、指導事項を明確にしなが一つのテキストから様々な問いを設定し、見方を広げたり考え方を深めたりすることが大切です。
- 全体を通して、中学1年や小学5・6年の指導事項を出題した問題については、平均通過率が低い結果になっています。授業では、既習の教科書教材を活用し、復習を取り入れながら「前学年(単元)との違い」を明確にし、系統を意識した単元づくりを行うことが大切です。

(2) 各設問の分類と平均通過率

国語(中学校第2学年)

	設問			出題学年	内容領域別				評価の観点		県平均		校内平均		出題の意図	
	大問	中問	小問		知識及び技能	話すこと 聞くこと	書くこと	読むこと	知識・技能	思考・判断・表現	通過率	無解答率	通過率	無解答率		
1	1	一	1	中1	○				○		75.0%	3.3%			学年別漢字配当表に示されている漢字を文や文章の中で正しく読んだり、書いたりすることができるか。	
2			2	小4 小6	○				○		61.8%	7.0%				
3		二		小5 小6	○				○		68.8%	0.5%				
4		三		小5 中2	○				○		69.2%	0.1%				尊敬語を正しく理解しているか。
5		四		中2	○				○		60.9%	0.2%				形容動詞の活用を理解しているか。
6		五		小6 中2	○				○		62.0%	0.1%				熟語の構成を理解しているか。
7		六		中1 中2	○				○		37.5%	0.3%				行書の特徴を理解しているか。
8		七	1	中1	○				○		78.1%	1.7%				文語のきまりを理解しているか。
9		七	2	中2	○				○		79.2%	0.1%				古語の意味を理解しているか。
10		七	3	中2	○				○		43.6%	0.2%				古文を読んで、文意を捉えることができるか。
11	2	一		中1				○	○		52.2%	0.3%			表現の技法を理解しているか。	
12		二		中1				○	○		56.9%	13.7%			文章の表現の効果について捉えることができるか。	
13		三		中1				○	○		78.4%	0.2%			場面の展開や登場人物の心情の変化をなどについて、描写をもとに捉えることができるか。	
14		四		中1				○	○		82.9%	0.3%			場面の展開や登場人物の心情の変化をなどについて、描写をもとに捉えることができるか。	
15		五	I	中2				○	○		79.1%	0.6%			登場人物の言動の意味などについて考え、内容を解釈することができるか。	
16		五	II	中2				○	○		85.4%	4.3%			登場人物の言動の意味などについて考え、内容を解釈することができるか。	
17		3	一		中1			○		○		57.9%	0.4%			読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整える視点をもっているか。
18			二		中2			○		○		35.7%	0.5%			伝えたいことがわかりやすく伝わるように、文章の構成や展開を工夫することができるか。
19			三	条件1	中1				○		○	81.9%	6.9%			書く内容の中心が明確になるように、文章の展開を考えられているか。
20			三	条件2	中2				○		○	86.2%	7.2%			自分の考えが伝わる文章になるように、工夫できているか。
21	一			中1	○				○		40.1%	0.9%			話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめることができるか。	
22	4	二		中2	○				○		71.6%	1.1%			目的や場面に応じて話題を決め、異なる立場や考えを想定しながら集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討することができるか。	
23		三		小学校 高学年	○				○		40.9%	1.9%			話の内容が明確になるように、事実と感想・意見を区別するなど、話の構成を工夫することができるか。	
24		四	条件1	中2				○		○	78.3%	12.1%			論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるか。	
25		四	条件2	中2				○		○	74.8%	13.4%				
計		問題数		10	3	6	6	11	14							
		出題割合		40.0%	12.0%	24.0%	24.0%	44.0%	56.0%							
										65.6%	3.1%					

(3) 国語<中学校第2学年>

ア 特徴ある問題から 大問 3  
 (中学校学習指導要領解説 国語編  
 「B 書くこと」 P93~95)

特徴ある問題として、過去の全国学力・学習状況調査や鹿児島学習定着度調査の結果から課題となっている「複数の資料から適切な情報を得てそれらと比較したり関連付けたりすること。」「文章を読んで根拠の明確さや論理の展開、表現の仕方等について評価すること。」について出題しています。

**中問2**

次の□は、コメントB「なぜ読書の紹介はこの四つにしたの？」に対して、佐藤さんが返信したものの一部です。この返信は、あとのア～エのどれについて説明しようとしたものだと考えられますか。

**【佐藤さんの返信（一部）】**

読書の効果は、学力など自分の力を伸ばすことに間わるものだけではないということ、読者に印象付けるために、この効果も紹介することにしました。

ア 登場人物の気持ち等を考えることで、想像力がきたえられる効果を紹介した理由。  
 イ 確かな知識が身に付くことで、自分の世界が広がることを紹介した理由。  
 ウ 語彙力が高まり、様々な表現が使えるようになることを紹介した理由。  
 エ 読書が、音楽やゲームよりも高いストレス軽減効果をもつことを紹介した理由。

【佐藤さんが書いた学校新聞原稿】

—読書週間のお知らせ—

来週からいよいよ読書週間です。図書委員会は、何週間も前から準備をしてきました。この機会に、ぜひたくさんの方に読んでほしいと思います。ところで、みなさんは、読書にはどのような効果があると思いますか。

まず、想像力が豊かになるということです。登場人物の気持ちを想像したり、文章表現から状況を思い浮かべたりすることで、想像力がきたえられていきます。

次に、確かな知識が身に付くということです。読書から得られる知識は、自分の世界を広げてくれます。

さらに、語彙力が上がり、様々な言葉を使えるようになることです。言葉の選択技が広がると、自分の伝えたいことを適切な言葉で表現できるようになります。

最後に、リラクゼーション効果があるということです。イギリスの大学の調査によると、読書には音楽を聴くことやゲームをすることよりもストレス軽減効果が大きいそうです。

みなさんも、ぜひ読書週間に読書の効果を実感してみてください。

また、先週行った購入希望の本に関するアンケートには、多くの人が参加してくれましたが、その中で最も票を集めた「かがみの孤城」が、新刊図書として入荷され、新刊コーナーに並んでいるので、ぜひ借りて読んでみてください。

他にも企画がたくさん用意しています。読書週間を楽しみに待っていてください。

コメントA □

コメントB □

なぜ読書の効果の紹介はこの四つにしたの？

コメントC □

知識を身に付けるには読書がいいと言え根拠は何なのか。インターネットで検索した方が早くないかな。

コメントD □

コメントE □

3 佐藤さんは、図書委員として読書週間の準備を行っています。読書について、たくさんの人に興味をもってもらうために、学校新聞の記事を載せようと考え、パソコンのワープロソフトを用いて記事を書きました。書いた記事のデータを図書委員の他のメンバーと共有したところ、ワープロソフトのコメント機能を使って、いくつかの意見が寄せられました。次は、「佐藤さんが書いた学校新聞原稿」とそこに寄せられたコメントです。これらを読み、あとの問いに答えなさい。

本問題における平均通過率は35.7%、無答率は0.5%となっています。原因として、根拠が確かな事実や事柄に基づいたものであることや、自分の考えが事実や事柄に対する適当な解釈から導き出されていることなど、根拠の適切さ（根拠が自分の考えを支えるものであるかどうか）を検討するような授業、または、書き手が目的と意図に応じてどのような表現の工夫をし、それはどのような効果があったかなど、読み手からの助言を踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見出すような授業が十分になされていない可能性があります。そこで、次のような視点での授業改善が考えられます。

イ 授業改善のポイント

単元の中で、[知識及び技能] (2)ア「情報と情報との関係」と、「書くこと」を関連付けながら、系統性を踏まえた授業を行う必要があります。第2学年では、他者の意見を理解したり、自分の意見を述べたりする言語活動に取り組む中で、話や文章の中に含まれている情報と情報とがどのように結び付いているかを捉えたり、整理したりしながら、意見と意見を支える根拠を明らかにするとともに、意見を裏付けるためのより適切な根拠の在り方を理解することが重要です。

評価規準（「おおむね満足できる」状況（B））を明確にして、生徒の記述を適切に評価したり、生徒自身が評価の観点を意識する言語活動を設定したりしましょう。具体的には・・・

- 実際の言語活動を踏まえて、授業前にループリックやゴールモデルを作成する。ループリックを基に、生徒の反応を分析して指導を行ったり、ゴールモデルから生徒が評価規準を考えたりする活動を設定する。
- 単元内に相互評価や自己評価を計画的に位置付ける。目的や意図、根拠となる情報など、観点を明確にした相互評価を行ったり、他者からの意見等を踏まえた振り返りを設定したりする。

本問題では、【学級新聞原稿】【佐藤さんの返信】それぞれの文章の、どの表現に着目するかが大事になります。  
 【学級新聞原稿】の「まず」「次に」など接続する語句に着目して、「読書の四つの効果」を確認します。また、【佐藤さんの返信】の「自分の力を伸ばすことに関わるものだけではない」から、四つの違いを分類していきます。